



2階 案内図

2階

歴史文化室1

光州・全羅南道の歴史は、約6万5000年前にさかのぼります。粗い握斧（ハンドアックス）から精巧な石刃までさまざまな旧石器が出土しました。一方、莞島（ワンド）郡麗瑞島（ヨソド）や麗水（ヨス）市安島（アンド）など南海岸の貝塚からは新石器時代の遺物が出土し、狩猟や採集、葬儀などを営んだ当時の人々の暮らしぶりが見て取れます。青銅器時代の遺跡とされる高興（コファン）、麗水、宝城（ポソン）からは琵琶形銅剣が出土しました。和順（ファスン）大谷里（テゴクリ）遺跡の精巧な青銅鏡や青銅鈴などは、韓国の初期鉄器時代を代表するものです。また、光州新昌洞（シンチャンドン）遺跡は、初期鉄器時代から三韓時代にかけて形成された韓国最大規模の複合農耕村落です。三韓時代から三国時代にかけて甕棺墓や円筒形土器など独特な馬韓文化が発展しました。全羅南道東部の順天（スンチョン）雲坪里（ウンピョンリ）遺跡などからは、伽耶との交流が確認できます。5世紀後半～7世紀代には、金銅冠帽のような百済の中央の文化や生活様式が徐々に定着していきました。

歴史文化室2

新羅が三国を統一した後、求礼（クレ）の華嚴寺（ファオムサ）が教宗仏教の中心となる一方、張保臯は将島（チャンド）に清海鎮（チョンヘジン）を設置して国際海上貿易を主導し、宝林寺（ポリムサ）やの実相寺（シルサンサ）など禪宗仏教寺院の成立を支援しました。また、後百済を建てた甄萱は、武珍（ムジン）州を基盤に新羅から独立し、勢力を拡大しました。その後、高麗時代になると、康津（カンジン）は王室や貴族のための最高級青磁の生産地として栄える。珍島（チンド）龍藏城（ヨンジャンソン）は、三別抄（高麗の軍事組織）の対蒙抗争の拠点だったことで、この時代の遺跡として有名です。朝鮮時代になると、光州・全羅南道の士林（在地儒学者）の間で道学が栄えたほか、歌辞文学（朝鮮時代の詩歌の一形式）や南宗画といった芸術面でも大きな成果を残しました。壬辰倭乱のとき、は多くの義兵が朝鮮を守るために立ち上がり、その精神は19世紀の東学農民革命や義兵抗争へと受け継がれました。

見逃せない韓国文化財

2階



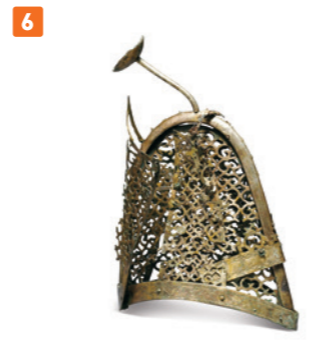
剥片尖頭器
順天市月坪・竹山、旧石器時代



装身具(耳飾り、貝釧など)
安島貝塚、新石器時代



甲冑
高興雁洞古墳、三国



金銅冠帽
高興雁洞古墳、三国



光陽中興山城双獅子石灯
統一新羅、国宝第103号



華嚴石経
求礼華嚴寺、統一新羅、宝物第1040号



鉄造如来坐像
高麗

1階



青磁梅瓶
高麗 12～13世紀



白磁龍文壺
朝鮮 18世紀



青銅獅子形香炉
中国・元(1271-1368)

* 資料の劣化を防止するために、絵画、書道、文書類は展示替えを行いながら公開しています。

3



和順大谷里出土青銅器一括
初期鉄器時代、国宝第143号

4



光州新昌洞出土土器
初期鉄器時代

国立光州博物館のおすすめ観覧コース

2階の歴史文化室を先に見てから、1階のアジア陶磁文化室へ進んでください。

先史時代・古代のさまざまな遺物から、高麗・朝鮮時代の青磁や白磁、アジアの陶磁器まで、時代順に展示を見ることができます。

10



羅漢像
潭陽瑞峯寺址、朝鮮

11



青銅仏龕と阿弥陀如来三尊像
順天梅谷洞、朝鮮 1468年、宝物第1874号

12



粉青沙器象嵌李先齊墓誌
朝鮮 1454年、宝物第1993号

16



青磁篋文有蓋壺
中国・元(1271-1368)

17

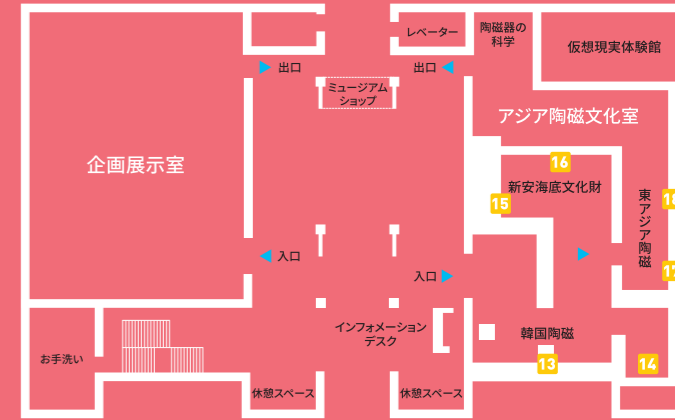


白磁青画罐
中国・明(1368-1644) 景德鎮窯

18



白磁青華象馬文注子
ベトナム 15世紀、クラーオチャム沖沈没船遺跡出土、ベトナム国立歴史博物館



1階 案内図

1階

アジア陶磁文化室

韓国をはじめとするアジアの陶磁の発展や新安海底文化財を紹介する空間です。第1部では青磁、粉青沙器、白磁へとつながる韓国陶磁の流れを、当時の社会文化史と関連づけて紹介します。「茶文化」、「文人文化」、「儀礼文化」、「吉祥文化」などをテーマに、さまざまな用途に使われた陶磁器を展示しています。第2部は新安海底文化財で、貿易陶磁器や金属器、木材(イブキ)などのほか、船の上で使用されたとみられる品々も展示されます。第3部では中国、ベトナム、日本の陶磁が紹介されます。それぞれの国の陶磁器の特徴や違いを感じることができるでしょう。そして、第4部「陶磁器の科学」のコーナーでは、博物館の裏山の土で粉青沙器を作るという実験の結果を紹介し、陶磁器の材質による成分の違いを説明しています。

陶磁器の科学

「地元の土で陶磁器を作ることができるだろうか」という疑問から始まった実験コーナーです。身近な場所の土でも、足りない成分を補えば陶磁器を作ることができるという科学的な結果を示しました。



博物館のある梅谷洞で採れた「梅谷土」100%の粉青沙器



梅谷土と粉青土を7:3の割合で混ぜた粉青沙器

屋外展示場

庭園には、光州・全羅南道地域の寺院跡や遺跡から移した文化財が展示されています。代表的なものに、世界文化遺産であるコインドル(支石墓)や、康津龍門里青磁窯を修復したものがああります。また、長雲洞五層石塔は、高麗時代の石塔様式を継承した貴重な資料と評価されています。



子ども博物館

2000年前の先史時代の村を探検したり、陶工になったつもりで陶磁器を作ったりできます。先史時代の人々の共同体意識や知恵、陶磁器の製作、新安船による国際交流などに触れてみてください。また、「幼児トダムツール」では、遊びながら自然に伝統文化に親しみ、子どもたちの想像力を育むことができます。[教育館 1階]



仮想現実体験館「700年のタイムトラベル」

4面プロジェクションマッピングと拡張現実を用いたエクステンデッド・リアリティ(XR)で、700年前の中国へと旅します。1323年、中国・慶元港を出発する新安船の船員になって、さまざまな陶磁器を購入し、航海してみましよう。また、新安船が沈没した後は、陶磁器を発掘するミッションが課されます。

利用案内

- 1階アジア陶磁文化室内
- 体験時間：10:00～17:00(1日13回)
- 申込人数：1回当たり1人～4人
- 利用可能身長：130cm以上(安全のため)
- ホームページで事前予約(状況によっては、当日その場での予約も受け付けます)

観覧と施設案内

観覧時間：10:00～18:00

- * 夜間観覧：毎週土曜日(3月～10月) 10:00～20:00
- * 観覧時間の詳細については、ホームページでご確認ください。
- 休館日：1月1日、旧正月、秋夕(旧暦8月15日)
- 観覧料 無料
- 入場：閉館30分前まで

子ども博物館：10:00～17:00(毎月第3月曜日休館)

- 子ども博物館の観覧および教育プログラムの予約
- オンライン学習映像資料室および耳で聞く文化財(ホームページの教育イベントを参照)
- ご予約に関するお問い合わせ 062-570-7048
- * ホームページ統合検索/予約を参照

* 月刊広報誌やアジア陶磁文化ニュースレターのお申し込み、文化行事の詳細については当博物館ホームページをご参照ください

チェックサラン：図書閲覧室(教育館地下1階)：
10:00～17:00(月～金)

ミュージアムショップ：本館ロビー 82-62-570-7116
ベビーカー・車椅子の貸し出し 無料



ホームページ
QRコード


お客様へのお願い



- 当館は敷地内全面禁煙です。
- 展示室への飲食物の持ち込みはご遠慮ください。
- ペットを連れての入館はご遠慮ください。(補助犬を除く)
- 展示室内では携帯電話をマナーモードに設定してください。
- 展示品に触れないでください。また、展示品を損傷するおそれのある行動も謹んでください。
- 展示室内で、フラッシュ、三脚などを使用した撮影や営利目的での撮影はできません。
- 小さなお子様をお連れのお客様は、お子様の安全にご注意のうえ、ほかのお客様の観覧の迷惑にならないようにご指導ください。
- 自転車やキックボード、インラインスケート、スケートボードなどは、屋外スペースであってもご利用いただけません。

博物館のSNS



 **国立光州博物館**
(郵便番号 61066) 光州広域市 北区 河西路 110(梅谷洞430番地) T 062.570.7000



国立光州博物館
GWANGJU NATIONAL MUSEUM

日本語

吳相許 | 磨製石剣 | 2020 | 61 × 50.8cm



国立光州博物館の歩み

- 1978年12月 6日 国立光州博物館 開館
- 1982年 7月26日 博物館大学を開設
- 1998年12月15日 収蔵庫を新築(研究棟)
- 2005年12月20日 教育館 竣工
- 2006年 9月 1日 常設展示室をリニューアルオープン(古墳室新設)
- 2006年12月 6日 子ども博物館 開館
- 2013年 9月17日 農耕文化室をリニューアルオープン
- 2020年 5月21日 仮想現実体験館 開館
- 2020年12月18日 アジア陶磁文化室を新設
- 2021年 3月 8日 歴史文化室を新設

国立光州博物館の主な企画展示

- 朝鮮時代の肖像画：1980年3月5日～4月6日
- 新安沖海底の遺物：1986年9月1日～11月30日
- 真景山水画：1987年1月9日～12月7日
- 先史・原史時代の道具と技術：1994年10月25日～11月26日
- 韓国近代絵画の名品：1995年9月19日～11月5日
- 柴山江の古代文化：1998年12月8日 1999年2月7日
- 先史時代と古代への旅：2005年10月18日～11月27日
- 南宗画の巨匠・小痴許鍊の200年：2008年7月8日～8月31日
- 南道文化展Ⅰ - 光州：2008年9月12日～12月28日
- 風を呼ぶ鳥：2010年9月4日～10月24日
- 南道文化展Ⅱ - 光陽：2011年10月4日～12月4日
- 南道文化展Ⅲ - 康津：2012年7月10日～9月2日
- 新昌洞遺跡 - 2千年前のタイムカプセル：2012年12月25日～2013年3月3日
- 南道文化展Ⅳ - 順天：2013年5月7日～6月30日
- 無等山の粉青沙器：2013年7月23日～10月13日
- 南道文化展Ⅴ - 高興：2014年7月8日～9月28日
- 恭齋 尹斗緒：2014年10月21日～2015年1月18日
- 南道文化展Ⅵ - 潭陽：2015年8月25日～11月1日
- 即心是仏：2017年8月15日～10月22日
- 全羅道設置1000年：2018年10月23日～2019年2月10日
- 中国磁州窯名品特別展-白黒の饗宴：2019年5月28日～8月18日
- 6人の視線、国立光州博物館所蔵名品写真展：2020年9月7日～2021年1月31日
- 咸平礼德里新徳古墳、秘密の扉、隠された鍵：2021年7月19日～10月24日

国立光州博物館のBI Brand Identity



国立光州博物館(Gwangju National Museum)の頭文字「g」と代表的な文化財である陶磁器をモチーフに、太陽と月が時間とともに形を変えるように変化と発展を続ける国立光州博物館のイメージを表現しています。